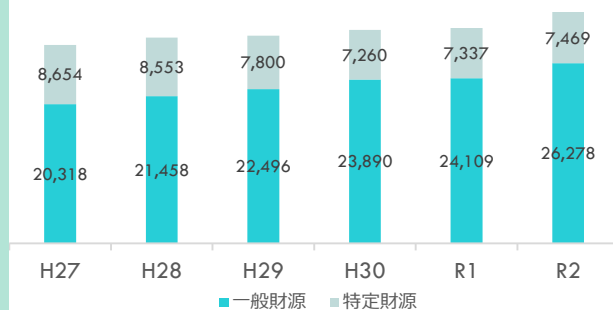
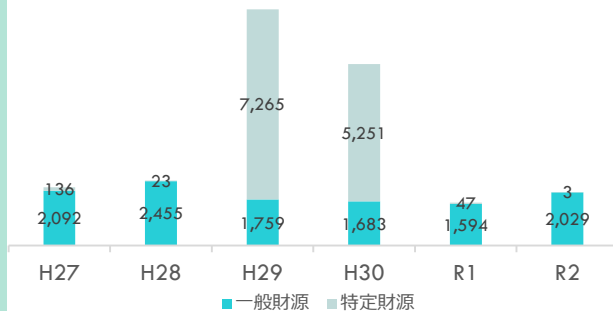


環境課

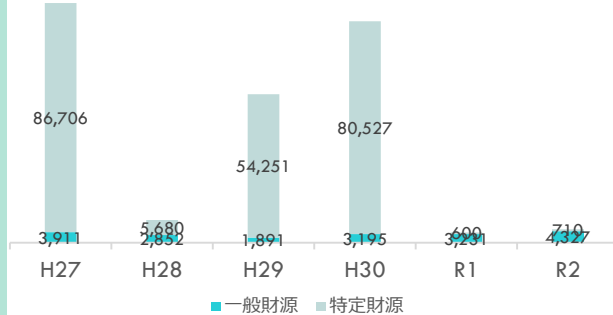
経常的経費の財源(万円)



臨時的経費の財源(万円)



普通建設事業費の財源(万円)

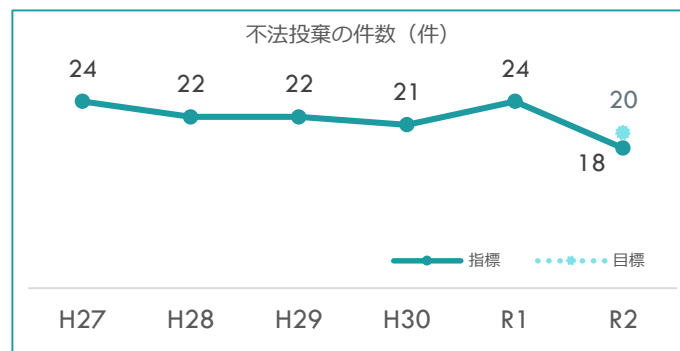
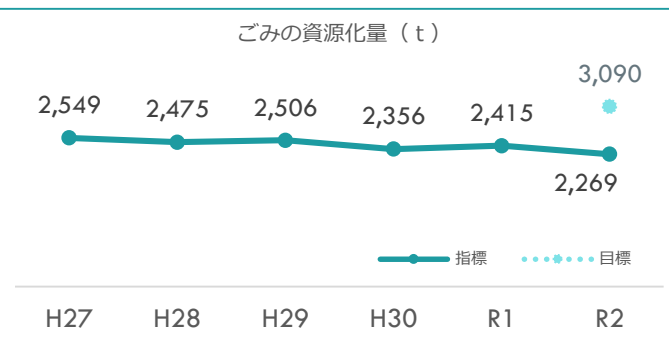
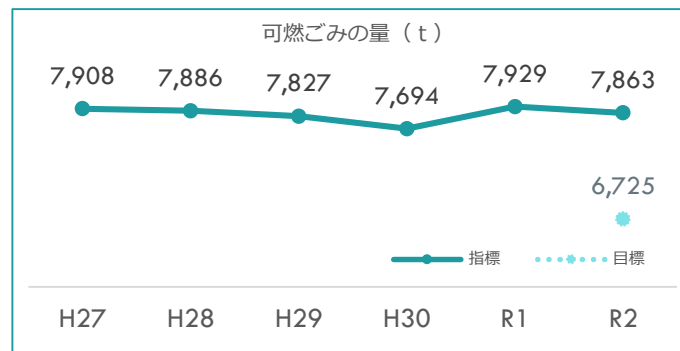
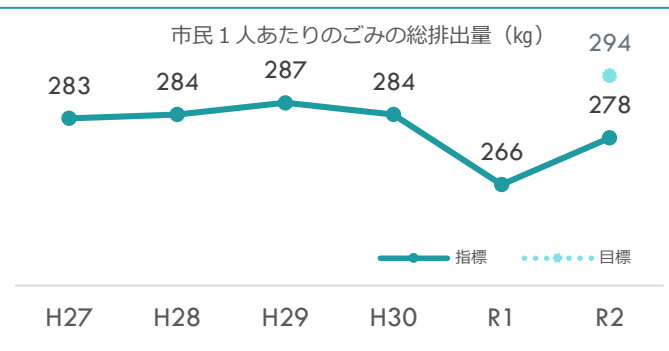


現状と課題

現在、ごみの処理については、平成25年度をもって和気北部衛生施設組合のごみ処理を終了したことから平成26年度から市内の施設等で処理をしています。そのため、収集体系の統一はもちろん、ごみの減量化に向け、さらなる分別・リサイクルの推進に取り組む必要があります。また、2つある最終処分場の残余容量及び残余年数を見極めつつ、次の候補地を選定していく必要があります。

し尿・浄化槽汚泥については、平成28年3月をもって和気・赤磐し尿処理施設一部事務組合を脱退したことにより、吉永地域も平成28年4月に新設された備前市汚泥再生処理センターで処理しています。市の施設に持ち込まれたごみは適切な処理を行っていますが、空き缶やたばこのポイ捨て、人目につきにくい道路沿いや河川などで不法投棄が発生しており、その防止のためモラル、マナーの向上や環境美化への意識を高めていく必要があります。

成果指標



指標の説明・・・

ごみは、「もやさない」「埋め立てない」をモットーに、ごみの減量化・資源化を推進することが必要です。ごみの排出抑制と分別を継続的に取り組むことにより、市民1人あたりのごみの総排出量が減り、資源化量が増えていくほど、循環型社会の実現に向かっていくことになります。

課題に対する主な取組

| 課題             | 課題に対する主な取組    | 概要                                                           | 臨経区分  | 予算執行(万円) | 特定財源(万円) | アウトプット<br>(どのくらいの事業や取組を行ったか)                             | アウトカム<br>(どれだけの成果が得られたか)                |
|----------------|---------------|--------------------------------------------------------------|-------|----------|----------|----------------------------------------------------------|-----------------------------------------|
| ごみ分別の徹底        | 9種23分別の導入推進   | 身近なところからごみの分別に取り込み、環境にやさしい循環型社会を目指す。(びん、プラスチック、金属類、紙類、その他資源) | 臨時的経費 | 28万円     | －        | 未実施の町内会への説明、資源回収ステーション設置補助、4か所<br>(資源回収ステーション総設置数 216か所) | 導入率、97.3% (R2年度 4 か所増)                  |
| リサイクルの推進       | 資源ごみ回収推進団体報奨金 | 資源ごみ1キロ当たり、報奨金5円の交付                                          | 臨時的経費 | 440万円    | －        | 交付団体数 89団体<br>(子ども会等)                                    | 回収資源重量、878,617kg<br>前年比80.6% (コロナ影響による) |
| ごみの排出抑制        | ごみの排出抑制       | 生ごみ処理機器購入補助                                                  | 臨時的経費 | 29万円     | －        | 交付件数 31件                                                 | 市民 1 人あたりのごみの総排出量<br>278 k g (前年266kg)  |
| 施設の適正運営・計画的な更新 | 循環型社会形成推進地域計画 | 循環型社会を推進していくための基本的な計画の策定                                     | 臨時的経費 | 140万円    | －        | 循環型社会形成推進地域計画を策定した (令和 3 年 4 月から令和 9 年 3 月までの 6 年間の計画)   | 次期最終処分場整備に係る国庫補助の採択に必要な地域計画を実施することができた。 |
| 環境美化           | モラル・マナーの意識向上  | 看板設置や広報紙での呼びかけ                                               | 経常的経費 | 40万円     | －        | 啓発看板購入枚数 140枚<br>広報紙掲載回数 10回                             | 不法投棄18件 (前年24件)                         |

施策の評価

|       |    |        |                                                                                                                                                                                                                       |
|-------|----|--------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 一次評価者 | 役職 | 環境課長   | 令和 2 年度のごみ処理については、新型コロナウイルス感染症に伴い、前年度比で、数値が下回った事業がある。しかしながら、令和 2 年度に策定した循環型社会形成推進地域計画に基づき、ごみの減量化、さらなる分別・リサイクルの推進に取り組むことにより、一般廃棄物の適正処理と省資源・循環型社会の構築を推進していく。<br>また、ごみの減量化・分別・リサイクルを推進することで、次期最終処分場の適正規模での計画を図っていく必要がある。 |
|       | 氏名 | 芳田 猛   |                                                                                                                                                                                                                       |
| 二次評価者 | 役職 | 市民生活部長 | ごみの減量化や資源化、人口減による排出ごみ量の減少を踏まえながら、環境にやさしい施設の継続に努めているところであるが、可燃ごみの減量化や資源化の目標値達成には至っていない。今後も引き続き省資源・循環型社会と自然共生型社会の実現に向けたごみ処理方法を一層推進していく必要がある。                                                                            |
|       | 氏名 | 藤田 政宣  |                                                                                                                                                                                                                       |